

2022. 3. 27 (日) マタイ28:18~20

**28:18** イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

**28:19** ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

**28:20** わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

<説教>

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。」(28:19-20a)

<天においても地においても、すべての権威が与えられてい>(28:18)るイエスはその権威に基づいて十一人の弟子たちにお命じなされたことでした。

今更ですが、28:19-20a は一続きの文章で、<…弟子としなさい。>が命令形の主動詞で書かれています。

そして<…バプテスマを授け>と<…教えなさい>は分詞形で書かれていて、<行って、…弟子としなさい。>という主動詞の内容を説明する形になっています。

ですから、直訳的には「<…バプテスマを授け>ながら、<…教え>ながら<…弟子としなさい。>」となります。

それにしても<…バプテスマを授け>ながら、<…教え>ながら<…弟子と>することは実際大変なことです。

と言うのは、<…バプテスマを授け>られることも、<…教え>られることも、そしてそれらを通してイエス・キリストの<弟子>となることを、生まれながらの罪深い人間は拒絶するからです。

そして同意に悪魔も<…バプテスマを授け>させまいと、<…教え>させまいと、イエス・キリストの<弟子>とさせまいと攻撃し、誘惑してきます。

**28:18** イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

**28:19** ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

**28:20** わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

また既に見たように、バプテスマを受けた者を一層激しく攻撃し、誘惑してきます。

イエスの教え、みことばという種を取り去り、この世の煩いや迫害などを用いて弟子の道から外れさせ脱落させます。

かつて<イスラエルの家の失われた羊たち>(10:6)つまり同胞の中に限ってイエスから使わされた際に、既に多くの困難に直面することが予告され警告されていました。(10章)

実際、イエスご自身が同胞ユダヤ人から拒絶され、十字架につけられました。

そして、今度は十字架とよみがえりのイエスを宣べ伝えるイエスの弟子たちがイエスを殺した同胞ユダヤ人たちから拒絶され、迫害を受けることになります。

同胞の中にそんな脅威がなおありましたし、ましてや選びの民ではなく救われるはずのない（と十一弟子たちたちは当時そう考えていた）異邦人を含めた〈あらゆる国の人々〉を〈…バプテスマを授け〉ながら、〈…教え〉ながら〈…弟子と〉することなどどうしてできるでしょうか。

それは十一人の弟子たちの力では到底できないことであり、イエスから召され委託された任務を果たすには彼らは余りにも無力でした。

いくら「恐れることはない。天と地のすべての権威を与えられたこのわたしがあなたがたを遣わすのだから。」と言われても、また「わたしがその権威をもって、あなたがたの働きがむなしくならぬようにする。」と言われても、なお不安で尻込みせざるを得ないのがそのときの弟子たちでした。

それでイエスは〈見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。〉(20)との約束のみことばをくださいました。

〈見よ。わたしは…〉と言う〈わたし〉、〈天においても地においても、すべての権威が与えられてい〉る〈わたし〉イエスを〈見よ〉です。

〈わたしはあなたがたとともにいます。〉とまず言われました。

かつて湖の上を歩いて弟子たちに近づかれたイエスを見て「あれは幽霊だ」とおびえ、恐ろしさのあまり叫んだ弟子たちにイエスが「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」とすぐ話しかけられましたが、あの「わたしだ。」とはここで〈わたしは…います〉と同じ言葉です。

あのときも、まさしく「今、わたしはいます」と弟子たちに言われ、もちろんその前にも後にもずっと弟子たちと〈ともに〉おられました。ここでも「今」〈わたしはあなたがたとともにいます〉と言われたのです。

かつて神がイスラエルの民をエジプトの奴隷から解放するためにモーセをミデヤンの野でお召しになり遣わそうとなさったとき、神はモーセに「わたしが、あなたたとともにいる。」と言われ(出エジプト3:12)、続けて「わたしは『わたしはある』という者である。」「『わたしはある』という方が私をあなたがたのところへ遣わされた」と言うようにモーセにお命じになりました(同3:14)。

そのとき神が言われた〈わたしはある〉と同じ言葉をお使いになって〈あなたがたとともにいます〉と言われたイエスが、モーセとともにおられ、十一人の弟子たちとともにおられ、そして私たちと〈ともにいます〉神です。

そして〈ともにいます〉のは〈世の終わりまで、いつも〉と約束してくださいました。

ご自分が再び来られて〈すべての権威〉を持っておられる〈天〉と〈地〉を全く新しくなさり、イエスの弟子たち、私たちの救いを完成してくださるその時まで〈いつも〉(直訳「すべての日々」)です。

もちろん、その後も永遠に〈いつも〉私たちとともにいてくださるのですが、私たち教会が〈…バプテスマを授け〉ながら、〈…教え〉ながら〈…弟子と〉する働き、任務はイエスが再臨なさる時までです。

ですから、始めに考えたように、その働きの大変さ、困難さに、自分たちの罪深さ、力

の無さに不安を覚えている弟子たち、私たちのために〈世の終わりまで、いつも〉と言われたのです。

そしてここでは「あなたがたは世のおわりまでいつもわたしとともにおれ」とは敢えて言わずに、まず〈わたし〉が〈あなたがたとともにいます〉〈世の終わりまでいつも〉とイエスは言うてくださいました。

私たち教会はイエスのみことばに従って〈…バプテスマを授け〉ながら、〈…教え〉ながら〈…弟子と〉する任務を精一杯〈世の終わりまで、いつも〉果たさなければなりません。その働きを実現し、実りあるものとしてくださるのは今や私たちと〈世の終わりまで、いつも〉ともにいてくださるイエスの御霊、聖霊です。

ですから、私たちが〈…バプテスマを授け〉ながら、〈…教え〉ながら〈…弟子と〉することが出来るなら、すべての栄光をただ神にのみ帰して神に感謝し、神だけがを賛美すべき、私たちは決して誇り高ぶってはならないのでもあります。

私たちは「アーメン。主イエスよ、来てください。」と祈りつつ、イエスのみことばに聞き、従い、イエスの委託に答えつつ、イエスから目を離さず、イエスを待ち望みます。

